



三浦元裕氏

(株)ケンエイ 代表取締役

2016年7月、父親が経営するレジャーホテルの設計・施工会社(株)ケンエイ(現・(株)ケンエイ)の経営を引き継ぎ、37歳で社長に就任。1980年の創業以来、同社はレジャーホテルの設計・施工に携わり、業界内での信用は厚い。大学では建築学科を専攻し、一級建築士、宅地建物取引士の資格をもつが、顧客目線のデザイン、施工でレジャーホテルをサポートする。持ち前の明るさとバイタリティーでレジャーホテル業界に携わる三浦社長に、現況と今後の展開などについて話を伺った。

社長就任とともに社名変更 父親と二人三脚で現場に注力

—三浦社長は2016年7月に社長になりましたが、貴社の業容についてお聞かせください。

三浦 当社の創業は1980年で、私の父親が(株)ケンエイとして会社を興しました。当社は施工だけでなく設計もやっているの、私が社長になるのに合わせ社名を(株)ケンエイに変更しました。創業当初はレジャーホテル以外にもさまざまな施設の設計・施工を行ってききましたが、ここ15年ほどはレジャーホテル業界に絞って仕事をしています。レジャーホテルの設計と施工を一体的に行なっているので社名から工務店をはずし、ケンエイに変えた次第です。

2017年12月にリニューアルオープンした「ホテル スイート パーク」(86頁参照)は当社が設計、施工をやらせていただきましたが、私が図面を描き、デザイン意匠等は父親が担当しました。案件によって担当は変わりますが、私は現場が好きなので、父親が設計して私は施工現場にいるケースが多いです。設計・デザイン等で父親と衝突することはほとんどありません。社員は6人でそれぞれ役割をもちながら、ひとつのチームとして仕事にあたっています。

—社長になって、一番変わったことは

ありますか。

三浦 お客さまから仕事をいただいて、自分が何のためにやっているのか、よく考えるようになりました。たとえば、ホテルの設計をする際に、どのようなデザインにすればお客さまが入りやすいとか、そのホテルは5年後にどうなっているかなど、メンテナンスも含めて長期的な視点で考えています。

—レジャーホテルをデザインするうえで、最も心がけていることはなんですか。

三浦 レジャーホテルはお客さまが入ってくれなければ、どうにもならないので、まずエントランスの入りやすさには細心の注意を払っています。それと夜の照明演出についてもとくに注意しています。話題のホテルやレストランがあれば、できるだけ現地に見に出かけ、いま何が流行っているのか常にアンテナをはって情報収集をしています。

学生時代は海外旅行に熱中 現在はゴルフ上達に向け特訓中

—大学は建築学科を専攻されています。学生時代から家業を継ごうと考えていたのですが。

三浦 家業が建築関係であったこともあり、一級建築士の資格をとるのが子どもの頃からの夢でした。将来、家業を継ぐという明確な意思があったわけではありません。私の就活時はいわゆる「就職

氷河期」で、就職活動には苦労しました。大手建設会社に就職しましたが、マンションの工事現場で朝7時から夜11時まで毎日、現場監督をする経験を2年間積みました。その当時はいまのように残業に対して社会的に厳しく問われることはなかったの、毎日帰宅時間が遅くなり、たいへん辛い思いをしました。身体がもたないで退社し、父親の会社(建築工務店)に入りました。そのときのマンション工事現場での厳しい経験は、いま役だっていると思います。

—レジャーホテルに特化して仕事をされていますが、慣れるまでたいへんだったのではないですか。

三浦 そうでもなかったです。というのは、私の実家は台東区根岸で、駅でいえばJR鶯谷駅と日暮里駅間の住宅街で生まれ育ちました。実家の近くにはレジャーホテル街があり、子どもの頃から間近に見てきましたので、レジャーホテル関係の仕事をするのに対しては抵抗はありませんでした。

—社長になられてストレスも多いと思いますが、趣味は何ですか。

三浦 旅行が好きです。現在はさすがにできませんが、学生のときにバックパックを背負って世界20か国以上を歩きました。学生時代は勉強そっちのけで、海外旅行にはまっていました。

いまはゴルフです。昨年、太平洋クラ

業界の継続的な発展に向けて これからもレジャーホテル一筋に全力

会社名/ケンエイ
住所/東京都台東区根岸2-8-6
連絡先/03-3876-7210
設立/1980年
業務内容/レジャーホテルの設計、施工、修繕業務全般



ケンエイが設計、施工を手掛けた「ホテル スイート パーク」(12月11日リニューアルオープン)。外観は2つのデザインティストを採り入れ、存在感を際立たせることに成功



ブの会員になりました。レジャーホテル関係者や友人など月1回くらいのペースでラウンドしています。ベストスコアは89ですが、調子が悪いと120くらい叩いてしまうので、安定したスコアが出せるよう目下、ゴルフ練習場に足繁く通っています。そのほか肩こり解消のためスイミングも定期的に行っています。また10歳と7歳の娘と一緒に、釣りにも出かけます。

設計、施工、修繕と長い付き合いで ホテルとの信頼関係を築き上げる

—2018年で創業から40年を迎えますが、貴社の特徴、強みはどこでしょうか。

三浦 当社の強みは設計、施工を一括してできることです。施工が前提となりますので、距離的な問題もあり首都圏中心に仕事をしています。

設計、施工のワンストップのメリットは、工期短縮とコスト削減ができることです。当社の場合、設計と施工が一体と

なっているので、計画段階での設計変更や施工現場でのデザイン変更等にも迅速に対応できます。レジャーホテルでは、工期短期は非常に重要になります。設計と施工をやっているの、「設計料と施工費の両方をもらえていいですね」といわれることがあります。実際には実費以外の設計料はいただいていません。ですから、設計だけの仕事は基本にお受けしていません。

—昨年あたりから業界全体としてリニューアルが活発化していますが、仕事の受注状況はいかがですか。

三浦 おかげさまで、忙しい状況とさせていただいています。当社の場合、積極的に営業を展開して仕事を受注するというよりも、これまで長年お付き合いのあるホテルから定期的に依頼されるケースがほとんどです。

リニューアルオープンを迎えて仕事が終わるのではなく、そこがスタート地点という考えで仕事をしています。リニュー



1978年12月、東京生まれ。芝浦工業大学工学部建築学科卒業後、大手マンションデベロッパーに就職。現場監督等を経験し、退社後、父親が経営する(株)ケンエイに入社。2016年7月、同社の代表取締役主任に合わせ、社名を(株)ケンエイに変更。2児の父親



学生時代はバックパックを背負い、海外旅行にはまっていたという三浦社長(写真はイタリア・フィレンツェにて)

アルしても、設備、内装等は経年により必ず定期的な修繕が必要となります。実際、水漏れや漏電、お湯がでないなどさまざまな電話が毎日のように寄せられます。各ホテルの設備状況についてはすべて頭に入っているの、どう対処すればよいかすぐに判断できます。リニューアル時だけでなく、その後の設備面の小さなトラブルにも迅速に対応できているの、それが長いお付き合いにつながっているのだと思います。

ただし、現在は仕事は順調に推移していますが、東京オリンピックが終わり、5年後、10年後、レジャーホテル業界ならびに当社がどのような事業環境にさらされているかはなかなか予想できません。当社としましては、先代が築きあげてきたお客さまとの信頼を大切にしながら、今後もレジャーホテル業界一筋に、みなさまのお役に立てるよう全力を尽くしていきたいと考えております。

—本日はありがとうございました。